

第22回”魂の俳人“藤枝市村越化石俳句大会

入賞作品集

藤枝市

藤枝市村越化石俳句大会について

平成十四年、藤枝市岡部町出身の村越化石氏の功績を顕彰して、藤枝市岡部町新舟に句碑を建立すると同時に創設されたものです。

大会の主旨は、村越化石氏の俳句の世界の理解、俳句に人生の豊かさを見出している方々に作品発表の機会を作ること、そして初心者をはじめ小中学生の皆さんが俳句に親しみ、楽しんでいただくことを目指しています。

”魂の俳人“村越化石

村越化石氏は大正十一年藤枝市岡部町に生まれ、ハンセン病を発症し、十六歳のとき治療のため離郷。

その後、俳人大野林火氏に師事し、精進に精進を重ねて数々の立派な作品を生みだし、「魂の俳人」として数多くの賞を受賞しています。

昭和五十八年
　第十七回蛇笏賞 受賞
平成三年
　紫綬褒章受章
平成二十六年三月八日
　死去（九十一歳）

選者紹介

高柳克弘（たかやなぎかつひろ）氏

一九八〇年、静岡県浜松市生まれ。俳句結社「鷹」編集長。第十九回俳句研究賞、第二二回俳人協会評論新人賞、第一回田中裕明賞、第四六回俳人協会新人賞、第七一回小学館児童出版文化賞。二〇一七年度、二〇二二年度Eテレ「NHK俳句」選者。近著に『おなやみ見つけます　ことば医者』（ポプラ社）。



村越化石賞

小学生の部

しょっぱいなパパになげられ海の中

岡本結愛
藤岡小学校・2年

〔講評〕

「パパになげられ」、なんともダイナミックな海遊びをしたのですね。「しょっぱいな」という、思いがけず口に入った潮水の味を言ったのが、この句のポイントです。五感をとおして、海を全身で感じ取り、それをストレートなことばで俳句にしたことが、すばらしかったです。

中学生の部

夏の雲自転車止めて見上げけり

フローレス トリズタン クラウド
岡部中学校・1年

〔講評〕

見上げるような夏の雲ということで、積乱雲（俳句では「雲の峰」と呼びます）だとわかります。わざわざ自転車を止めたという行動で、夏の自然に対する作者の感動が、静かに、しかし確かに伝わります。大人になると、こういう心を忘れがちになってしまいます。

市長賞

小学生の部

川遊びはじめて行けたふかい場所

狩野莉子
葉梨小学校・3年

〔講評〕

川にはいきなり深くなるところがあり、注意しなければなりませんが、川遊びは自然を学ぶ貴重な機会です。深いところまで行くことはできたのは、成長の証。ときには冒険もしつつ、一歩一歩大人になっていく姿がまぶしいです。「はじめて」の一語に、よろこびやほこらしさ、少しの怖さなど、さまざまな思いが凝縮されました。

中学生の部

夏の駅祖母の歩みに歩をゆるめ

森田一華
青島北中学校・3年

〔講評〕

祖母の歩く速さに、自分を合わせたのです。「歩をゆるめ」という表現が優しく、それはそのまま、作者の心の優しさを表しています。「夏の駅」という言葉から、人々も活気があり、目的地へ足早に向かっている感じがします。その中を、ゆっくりと歩くふたりの姿が、とても尊いものに思われます。

教育長賞

小学生の部

なつやすみぼくのまちにもいた武将

原田紘
広幡小学校・3年

〔講評〕

夏休みの自由研究で、作者は地元の歴史について調べたのでしょう。信長や信玄などの有名な武将ではないにせよ、風土が誇る武将の存在を知ったことで、地元への愛着がいっそう深まったにちがいありません。歴史を知ろうとする作者の好奇心に、大きな拍手を送ります。

中学生の部

風揺れるタオルで休む赤とんぼ

木村光汰
岡部中学校・3年

〔講評〕

タオルも揺れているし、そこで休んでいる赤とんぼもまた、つられて揺れているのです。人間の生活圏にいながら、のびのびしている赤とんぼの姿、心が和みます。「秋うらら」という言葉がありますが、まさにそんな感じ。穏やかで、誰も傷つかない、平和なひとときを描いています。

藤枝市文化協会会長賞

小学生の部

すいかわりわれてわあっとみんなわらう

野沢　元稀
大洲小学校・1年

〔講評〕

一句を口にしたときのリズムが良いことが、すぐれた句の条件です。この句は、「わり」「われて」「わあっと」「わらう」と、「わ」の音が繰り返されていて、とてもリズミカルです。口にしたときにここちよく、すいかわりのにぎやかさや楽しさがありありと伝わってきます。

中学生の部

スマホ消し暗さひろがる夏の夜

佐藤　裕太
青島中学校・2年

〔講評〕

「暗さひろがる」というところからは、スマホを消したあとの闇の深さと、それを怖れる心が伝わります。スマホとともに生きている、現代人ならではの感覚です。夏でも夜になれば涼しくて心地よいのですが、この句の「夏の夜」は心地よさだけではなさそうです。

入選作品

小学生の部

どくだみのにおい覚える祖父の庭
藤枝小学校・5年　伊藤　律

かぼちゃのつるどこまでのびるつもりかな
藤枝中央小学校・2年　帯金　南菜星

浴衣はねみんなで着ると花畑
青島小学校・4年　八嶋　心菜

夏休みどじょうと戦う泥の中
青島東小学校・4年　村瀬　晴一

妹がむずかしそうにスイカ食う
葉梨小学校・3年　平山　晴琉

さらさらのゆきをかためてゆきだるま
高洲小学校・2年　水野　心

ゆらゆらとねこの毛ゆらすせんぷうき
高洲小学校・4年　村松　なずな

花火消え心のなかでまだひかる
大洲小学校・5年　鈴木　七椿

カブトムシクロとつの丸いいなまえ
藤岡小学校・1年　杉浦　快音

おくらちゃんスープの中でほしになる
高洲南小学校・2年　石田　せと華

入選作品

中学生の部

「もっと右」妹怒るすいか割り	藤枝中学校・1年	前田　莉央佳
秋近し心に響く五時の鐘	藤枝中学校・2年	大塚　彰杜
我を待つ五重の塔や春夕べ	青島中学校・3年	川端　美貴子
蝉が言う君の理想は絵空事	青島中学校・3年	山田　優希
鷹のようボールと共に跳ぶ自分	葉梨中学校・2年	クリスチャンソン　ショーン　謙人
夕ぐれやまだ熱を持つ街の風	高洲中学校・1年	坂中　凜南
くるぶしの色ちがいすぎああ日焼け	大洲中学校・1年	山岸　宙暉
礼を終え畳に残る夏の汗	藤枝順心中学校・3年	小山　柚香
夏休みロボット作りはげむ日々	藤枝明誠中学校・3年	松永　暖史
秋雨の靴の重たき家路かな	藤枝明誠中学校・3年	油井　蒼大

歴代化石賞受賞作品

大会回	年度	部門	作品	氏名	学校名等
第1回	平成15	小学生	赤トンボ見に来てくれた運動会	森田彩加	埼玉県岡部小4年
		中学生	青い海白い砂浜夏が来た	松下和弘	大洲中2年
		一般	みどりの日村に自慢の樫大樹	新川晴美	静岡市
第2回	平成16	小学生	秋の空羊がさんぽしているよ	強瀬紗希	埼玉県岡部小5年
		中学生	大きな手小さな手をひく夏祭り	村越亮太	岡部中2年
		一般	身奇麗を常のこころに秋立てり	石井みよ子	焼津市
第3回	平成17	小学生	水まいてできたにじ橋一人じめ	柴田美優	藤枝小6年
		中学生	さわやかにひざっこぞうをすぎる風	岩瀬卓也	青島北中2年
		一般	はるばると来て望郷の碑に涼む	影島智子	富士川町
第4回	平成18	小学生	虫おくりあつい火のこがぼくにとぶ	朝比奈大輝	朝比奈第一小2年
		中学生	ひまわりと生きていきたいまっすぐに	山内晴香	藤枝中3年
		一般	語り合ふことも供養や秋彼岸	横山茂子	三重県四日市市
第5回	平成19	小学生	あまいももさわってびっくり毛があるぞ	池田直樹	焼津西小3年
		中学生	まっすぐな線路の先に夏の雲	和泉原あかり	葉梨中3年
		一般	大竜勢月を掠めて上がりけり	小野多生	焼津市

歴代化石賞受賞作品

大会回	年度	部門	作品	氏名	学校名等
第6回	平成20	小学生	エアコンがなくてもすずし祖母の家	溝口真加	大井川西小
		中学生	勉強はちょっと休憩星月夜	遠藤菜摘	西益津中
		一般	木苺を母が食べれば子も倣ふ	笠原沢江	牧之原市
第7回	平成21	小学生	かぶとむし木からおちてもまたのぼる	前田ひなた	西益津小2年
		中学生	雲海を泳ぎきつたり夢の中	小花海月	西益津中3年
		一般	洗い晒し身に爽やかや鍬担ぐ	天野公江	富士市
第8回	平成23	小学校低学年	富士登山夜空がきれいまた来るよ	小林悠斗	岡部小3年
		小学校高学年	グランドにあせがちってるあとがある	谷口泰亮	大洲小5年
		中学生	電線に音符のような稲すずめ	鈴木奈々恵	焼津中3年
		一般	浴衣着て川の夕暮れ見てをりぬ	田崎とし子	沼津市
第9回	平成24	小学校低学年	太ようの中でかがやくぎんやんま	下田理音	青島東小3年
		小学校高学年	炎天下みんなでとった優勝旗	横山　翔	青島北小5年
		中学生	法隆寺緑の中に溶けにけり	実石理子	和田中3年
		一般	茶の銘は「天下一」なり風薫る	磯部和子	藤枝市泉町
第10回	平成25	小学校低学年	たべたいなふじさんみたいなかきごおり	松浦鉄弥	藤枝小3年
		小学校高学年	夏の夜ねころんで見た流星群	永田　藍	青島小5年
		中学生	ふりかえる阿弥陀も見入る蓮の花	秋山いぶ樹	焼津中3年
		一般	芋の露馴染みばかりの診療所	城所有子	藤枝市音羽町

歴代化石賞受賞作品

大会回	年度	部門	作品	氏名	学校名等
第11回	平成26	小学校低学年	すいかわりぼくがきめるぞどまんなか	板橋巧実	高洲小3年
		小学校高学年	妹の笑顔はまるでひまわりだ	藤本　愛	高洲南小4年
		中学生	若鮎やうろこ光らせ瀬を登る	山下美徳	藤枝明誠中2年
		一般	心眼で詠みし句胸に一夜酒	高橋和子	静岡市葵区
第12回	平成27	小学校低学年	夏空にイルカのジャンプ金メダル	服部芽依	高洲小3年
		小学校高学年	夏休みたいくつそうなランドセル	永井茉桜	小川小4年
		中学生	豊の秋祖父の笑顔は花のよう	濱田　歩	東京都町田第一中2年
		一般	茶を摘みつ子の宿題の九九を聞く	菅原末野	榛原郡吉田町
第13回	平成28	小学校低学年	夏休み最後の一日短いな	櫻井　秀	青島小3年
		小学校高学年	いそがしい母にあげたい夏休み	漆畑美心	小川小5年
		中学生	タンポポは未知の世界に飛んでゆく	三ヶ尻新	広幡中1年
		一般	堪ふること今は淋しさ千菜汁	中谷貞子	北海道恵庭市
第14回	平成30	小学生	太陽の色ももらったマクワウリ	市川真綾	高洲小6年
		中学生	お日さまが会話している向日葵と	高野颯太	岡部中1年
		一般	雁渡るサイクリストは一列に	内野義悠	埼玉県所沢市
第15回	令和元	小学生	あさがおにおみずあげるとにじがでた	鈴木彩世	藤枝小1年
		中学生	初富士に負けじと波上げ駿河湾	笹野陽介	藤枝中2年
		一般	端居して妻と余生のこと少し	大石容一	藤枝市築地

歴代化石賞受賞作品

大会回	年度	部門	作品	氏名	学校名等
第16回	令和2	小学生	笠地蔵ひとみの中に舞う花火	杉山大喜	青島小4年
		中学生	セミたちに負けるなわたしのベートーベン	萩原　遙	西益津中2年
		一般	見えぬ眼に見ゆるものあり新茶汲む	橋本 世紀男	東京都江東区
第17回	令和3	小学生	元気だよ声だけで会う夏休み	田端優菜	藤枝中央小4年
		中学生	川遊び岩から飛びこみ初挑戦	金原聡佑	青島中1年
		一般	田を植えて高根の富士を拝しけり	大石容一	藤枝市築地
第18回	令和4	小学生	おにやんまかわのまわりをぱとろーる	山下蒼馬	藤枝中央小1年
		一般	読初の「端坐」に父の朱線かな	古賀 勇理央	愛知県尾張旭市
第19回	令和5	小学生	海の家風鈴たちのオーケストラ	佐々木 海琉	青島北小学校6年
		中学生	せみしぐれ魂燃える部活動	疋野 ももこ	青島中学校2年
		一般	共白髪となりて花野の風をきく	椋本信枝	藤枝市水上
第20回	令和6	小学生	夏祭り屋台のトンネル光ってる	伊達千温	西益津小学校6年
		中学生	氷柱から滴る水の澄んだ音	増田愛子	藤枝中学校1年
		一般	手の先に夜明けてゐる盆踊	後藤 むつ子	伊豆市
第21回	令和7	小学生	あさがおのねじれたつぼみひろがった	市川登理	青島小学校1年
		中学生	夏の雨銀に光りて天から地	荒田 まりあ	青島北中学校1年

心眼 魂の俳人 村越化石

除夜の湯に肌触れあへり生くるべし

昭和25年作

新年への希望。ハンセン病の特効薬プロミンの開発により、療友とともに奇跡的な薬効に浴して一年。生命感を初めて見いだし、決意を詠んだ句。

闘うて鷹のゑぐりし深雪なり

昭和43年作

深雪に残った傷跡から、ひろがった鷹へのイメージ。俳句作りは気合い。気合いが奥にあるものを引き出す。この句は共鳴者が多く、私の代表作となった。

生きねばや鳥とて雪を払ひ立つ

昭和46年作

失明から立ち上がるも、私の日常はまだまだおぼつかなかった。

天が下雨垂れ石の涼しけれ

昭和51年作

林火先生に、この句は無欲の境地だといわれた。ぽっとんぽっとんという雨垂れの音、青苔のついた形のよい石を頭の中に浮かべた。

※掲載句の注釈は、村越化石句碑建立記念集『大龍勢』の自註句を参考にしました。



村越化石略年譜

大正11年	12月17日、志太郡朝比奈村（現・藤枝市岡部町）で生まれる
昭和13年	16歳でハンセン病発症、治療のため離郷。
16年	奈美と結婚、国立療養所栗生楽泉園に入園。
18年	本田一杉の指導を受ける。園の「栗の花句会」（後に高原俳句会）で、俳句精神を学ぶ。
23年	プロミンによるハンセン病の治療が日本で始まる。
24年	このころ化石さんもプロミンを注射。大野林火主宰の『濱』に境遇を隠したまま初投句。
25年	林火に境遇を打ち明けて、高原俳句会の指導を依頼する。
30年	片目の視力を失う。
45年	残る片目の視力も失う。
58年	第17回蛇笏賞 受賞。
平成3年	紫綬褒章受章。
14年	村越化石句碑除幕式。60年ぶりに帰郷。
20年	第8回山本健吉賞受賞。
26年	3月8日 栗生楽泉園で逝去 91歳

〔投句数の推移〕

大会回	年度	投句数			
		小学生	中学生	一般	合計
第1回	平成15	1,417	704	671	2,792
第2回	平成16	673	802	553	2,028
第3回	平成17	932	858	360	2,150
第4回	平成18	851	1,041	426	2,318
第5回	平成19	1,105	891	434	2,430
第6回	平成20	1,180	1,199	380	2,759
第7回	平成21	1,913	964	402	3,279
第8回	平成23	1,118	505	442	2,065
第9回	平成24	966	598	418	1,982
第10回	平成25	1,048	781	453	2,282
第11回	平成26	1,155	768	506	2,429
第12回	平成27	1,154	744	418	2,316
第13回	平成28	1,339	787	418	2,544
第14回	平成30	726	638	354	1,718
第15回	令和1	884	1,542	308	2,734
第16回	令和2	1,005	749	308	2,062
第17回	令和3	1,361	1,405	212	2,978
第18回	令和4	1,433	1,597	404	3,434
第19回	令和5	1,733	1,785	415	3,933
第20回	令和6	1,446	1,868	374	3,688
第21回	令和7	1,458	2,058	―	3,516
第22回	**令和8**	**1,436**	**1,971**	**―**	**3,407**

〔石刻句〕

望郷の 目覚む 八十八夜かな

平成七年作

望郷の句は私に多い。故郷を離れてすでに久しく、見えない眼の奥にいつも故郷がある。夏も近づく八十八夜は新茶の初摘みの頃、村中が茶の香りにつつまれるよき季節。

生気溢るる八十八夜は望郷とともに私の好きな言葉である。

村越化石



玉露の里

【俳句大会の経緯】

平成十五年（第一回）　「村越化石顕彰玉露の里俳句大会」開催

平成二十一年（第七回）　「藤枝市村越化石顕彰俳句大会」に名称変更

平成二十三年（第八回）　「藤枝市村越化石俳句大会」に名称変更
実行委員会による運営体制へ移行

平成三十年（第十四回）　選者に有馬朗人氏と関森勝夫氏を迎え、新たな運営体制で再開、小学生・中学生の部は市内在住・通学者を対象。

令和三年（第十七回）　選者に大串章氏を迎える。

令和七年（第二十一回）　選者に高柳克弘氏を迎える。

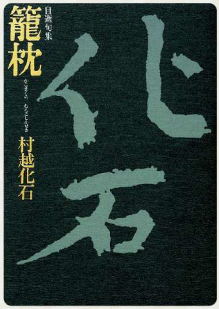
第22回"魂の俳人"藤枝市村越化石俳句大会
入賞作品集

令和八年十一月二十九日　発行
編集・発行　藤枝市 街道・文化課
藤枝市岡出山一丁目十一番一号
電 話 〇五四―六四三―三〇三六
印　刷　中央印刷株式会社

村越化石氏の句集



〔第九句集〕平成22年



〔卒寿記念自選句集〕平成25年



〔処女句集〕昭和37年



〔第八句集〕平成19年



〔第二句集〕昭和49年



〔第七句集〕平成15年



〔第三句集〕昭和57年



〔第六句集〕平成9年



〔第五句集〕平成4年



〔第四句集〕昭和63年